

「BRAIN and NERVE」第72巻 総目次

2020 年（第 1～12 号）

頁数は通巻数、（ ）内は号数

【特 集】

〈神経難病をクスリで治す

— 薬物開発の現況と近未来への展望〉

筋萎縮性側索硬化症における創薬開発の現状と展望

……………漆谷 真・ 13(1)

アルツハイマー病 — 臨床試験の現状と展望

……………玉岡 晃・ 23(1)

パーキンソン病治療薬開発の現状と展望

……………望月 秀樹・ 35(1)

多発性硬化症疾患修飾薬のいま

……………久富木原健二・中原 仁・ 45(1)

視神経脊髄炎スペクトラム障害治療の展望

……………中島 一郎・ 61(1)

〈 α シヌクレイノパチーの新たな展開〉

【鼎談】治療標的としての α シヌクレイン

……………長谷川隆文・下畑 享良・桑原 聡・ 97(2)

レム睡眠行動異常症と α シヌクレイノパチー

……………宮本 智之

沼畑 恭子・石戸 秀明・宮本 雅之・ 107(2)

α シヌクレインと家族性パーキンソン病 — 未来への展望

……………西岡 健弥・服部 信孝・ 119(2)

疾患修飾療法の成功を目指した多系統萎縮症の診断

……………下畑 享良・ 131(2)

診断バイオマーカーとしての α シヌクレイン

……………小野賢二郎・ 137(2)

α シヌクレインを標的としたパーキンソン病の疾患修飾薬

開発戦略……………長谷川隆文

小林 潤平・石山 駿・ 143(2)

〈でこぼこの脳の中でおしくらまんじゅうする脳機能〉

【対談】誰もが「でこぼこの脳」を持っている

……………池谷 裕二・河村 満・ 187(3)

せめぎ合う脳機能 — サヴァン症候群と「おしくらまん

じゅう仮説」……………河村 満

花塚 優貴・緑川 晶・ 193(3)

脳損傷からの回復……………関 啓子・ 203(3)

ADHD があっても QOL を高める方法

……………高山 恵子・ 215(3)

斎藤茂吉の病跡……………菊池 雷太・ 227(3)

〈神経疾患の診断における落とし穴

— 誤診を避けるために〉

神経疾患に関する医療過誤……………大平 雅之・ 287(4)

意識障害……………栗原 智宏・ 295(4)

頭痛・めまい……………清水 利彦・ 303(4)

脳卒中……………木村 浩晃・ 311(4)

認知症疾患……………池田 将樹・ 323(4)

パーキンソン病と関連疾患……………山脇 健盛・ 331(4)

神経難病……………田中 裕三

本間 豊・溝口 功一・ 345(4)

脱髄疾患……………久富木原健二・中原 仁・ 355(4)

筋疾患……………尾方 克久・ 371(4)

末梢神経疾患……………松尾 欣哉

古賀 道明・神田 隆・ 381(4)

神経感染症……………吉沢 和朗・ 387(4)

脳腫瘍……………小森 隆司・ 399(4)

画像診断……………百島 祐貴・ 407(4)

神経伝導検査……………三澤 園子・ 417(4)

脳波……………十河 正弥・森本 耕平・松本 理器・ 425(4)

〈多発性硬化症の現在と未来〉

多発性硬化症の疫学 — 多発性硬化症は本当に増えている

か……………越智 博文・ 467(5)

多発性硬化症の診断基準 — McDonald 診断基準 2017 を

読み解く……………中島 一郎・ 485(5)

多発性硬化症の MRI — 診断ツール、バイオマーカー、副

作用モニタリングツールとしての役割

……………三木 幸雄・ 493(5)

多発性硬化症における認知機能障害 — どのように評価し

て対応するか……………新野 正明・宮崎 雄生・ 509(5)

今後の多発性硬化症治療の方向性 — 新規疾患修飾薬が加

わって……………近藤 誉之・ 517(5)

〈前頭側頭葉変性症の今日的理解〉

前頭側頭葉変性症概念の歴史的変遷

……………川勝 忍・小林 良太

坂本 和貴・大谷 浩一・ 561(6)

前頭側頭葉変性症の臨床-病理-遺伝子相関

……………渡辺 亮平・新井 哲明・ 575(6)	
行動型前頭側頭型認知症の症候学…品川俊一郎・ 585(6)	
意味性認知症 — 診断のポイント…小森憲治郎・ 593(6)	
原発性進行性失語の分類と診断 — 今日のコンセンサスと 問題点……………大槻 美佳・ 611(6)	
前頭側頭葉変性症への対応と支援…森 康治 佐藤 俊介・宮脇 英子・池田 学・ 623(6)	
〈神経倫理ハンドブック〉	
医の倫理総論……………西澤 正豊・ 667(7)	
臨床倫理学の基礎……………荻野美恵子・ 677(7)	
脳神経疾患の終末期医療と倫理・法律 ……………稲葉 一人・ 689(7)	
臨床倫理の実際と倫理的な組織文化の構築 ……………杉浦 真・安藤 哲朗・ 701(7)	
脳神経疾患の判断能力をめぐって…瀧本 禎之・ 711(7)	
遺伝性神経難病に対する遺伝学的検査の倫理的課題 ……………武藤 香織・ 719(7)	
認知症ケアの臨床倫理 — frail で vulnerable な人々の尊厳 に配慮するために……………箕岡 真子・ 727(7)	
筋萎縮性側索硬化症の臨床倫理 — 人工呼吸器離脱に関す る議論と今後の課題を中心に……………板井孝彦郎・ 737(7)	
多系統萎縮症における臨床倫理……………下畑 享良・ 747(7)	
筋ジストロフィーなどの遺伝性神経筋疾患における臨床倫 理……………中島 孝・ 753(7)	
神経救急疾患の臨床倫理……………有賀 徹・ 767(7)	
脳卒中における臨床倫理……………片岡 大治 宮本 享・ 777(7)	
小児神経疾患の倫理的課題とアプローチ ……………笹月 桃子・ 785(7)	
摂食嚥下障害の臨床倫理……………國枝顕二郎 藤島 一郎・ 797(7)	
〈サルコイドーシス〉	
脳サルコイドーシス……………高尾 昌樹・ 833(8)	
脊髄サルコイドーシス……………藤澤美和子 古賀 道明・神田 隆・ 845(8)	
末梢神経サルコイドーシス……………古賀 道明・ 855(8)	
筋サルコイドーシス……………杉江 和馬・ 863(8)	
脳神経内科領域におけるサルコイドーシスの画像所見 ……………大平 健司・横田 元・ 871(8)	
神経サルコイドーシスの新しい治療 ……………浅見 麻紀・松永 和人・ 883(8)	
〈皮質性小脳萎縮症へのアプローチ〉	
皮質性小脳萎縮症の歴史と分類, 新たな診断基準 ……………吉田 邦広・ 923(9)	
孤発性小脳性運動失調症 — multiple system atrophy と	

mono system atrophy ……………渡辺 宏久・伊藤 瑞規 水谷 泰彰・植田 晃広・島 さゆり・ 931(9)	
皮質性小脳萎縮症の病理……………古賀 俊輔・ 939(9)	
遺伝性疾患の立場からのアプローチ ……………高橋 祐二・ 947(9)	
自己免疫性小脳性運動失調症からのアプローチ ……………吉倉 延亮 木村 暁夫・竹腰 顕・下畑 享良・ 961(9)	
特発性小脳失調症との鑑別を要する二次性小脳性運動失調 症……………桑原 聡・ 969(9)	
〈COVID-19 — 脳神経内科医が診るための最新知識〉	
総論 — COVID-19 の神経筋合併症と病態 ……………下畑 享良・ 1015(10)	
疫学データから考える COVID-19 対策の指針 ……………園生 雅弘・井戸川雅史・神林 隆道 下畑 享良・小林 正人・林 秀行・ 1023(10)	
COVID-19 神経合併症(1) — 脳炎・脳症 ……………中嶋 秀人・ 1031(10)	
COVID-19 神経合併症(2) — 脳血管障害と血管炎症候群 ……………八木田佳樹・ 1039(10)	
COVID-19 神経合併症(3) — 末梢神経障害と筋障害 ……………竹下 幸男・神田 隆・ 1045(10)	
COVID-19 診療と脳神経内科 — 当院における重症患者診 療の経験から……………幸原 伸夫・川本 未知・ 1049(10)	
神経疾患における遠隔医療 ……………大山 彦光・服部 信孝・ 1057(10)	
COVID-19 における神経病理の重要性と課題 ……………高尾 昌樹・ 1061(10)	
COVID-19 の神経障害と救急外来・ER・ICU での対応 ……………永山 正雄・ 1067(10)	
COVID-19 パンデミック下の脳卒中診療 — Protected Code Stroke……………平野 照之・ 1073(10)	
COVID-19 流行期における多発性硬化症・視神経脊髄炎関 連疾患・重症筋無力症の治療方針 ……………中村 正史・中島 一郎・ 1079(10)	
COVID-19 流行期間における神経筋疾患に対する NPPV 療 法……………藤田 裕明・鈴木 圭輔・ 1085(10)	
リハビリテーション治療や認知症介護などの濃厚接触を要 する施設における感染対策 ……………酒向 正春・竹川 英徳・ 1091(10)	
〈脳の発振現象 — 基礎から臨床へ〉	
特集の構成……………虫明 元・ 1123(11)	
細胞発振から集団発振へのモーダルシフトにおける Cl ⁻ -GABA システムの関わり ……福田 敦夫・ 1127(11)	

ドーパミンおよび NMDA 受容体と大脳基底核回路の機能解析	齊藤 奈英・笹岡 俊邦・1135(11)
中枢時計・視交叉上核によるサーカディアンリズム発振のメカニズム	三枝 理博・1143(11)
神経細胞の resonance 特性に関わるイオンチャネル	橋本 浩一・1151(11)
ネットワーク病としてのパーキンソン病	南部 篤・知見 聡美・1159(11)
前頭葉における文脈依存性の振動現象	虫明 元・1173(11)
神経振動と脳のネットワーク病	飛松 省三・1183(11)
視床を介した脳のグローバルな回路	高田 則雄・1195(11)
グリア・ニューロンから見る、ヒト脳における部分てんかん発作の発振現象	中谷 光良・池田 昭夫・1207(11)
ヒト脳発振操作による動的ネットワークの制御と臨床応用	小金丸 聡子・神作 憲司・美馬 達哉・1223(11)
TMS によるヒト神経ネットワークへの介入	宇川 義一・1239(11)
Triad TMS of Human Motor Cortex	花島 律子 宇川 義一・1247(11)
拘束条件付き自己組織化理論に基づく機能分化に関する情報論的基盤の解明	津田 一郎・1255(11)
脳領域間の機能的結合の解析	北野 勝則・1263(11)
力学系の考え方 — 導入的紹介とドーパミン・強化学習に関わる研究への適用例	加藤 郁佳 森田 賢治・1275(11)
「阿吽の呼吸」の神経基盤	本田 学・1283(11)
〈超高齢期の精神神経疾患を診る〉	
超高齢期の末梢神経・筋疾患	佐藤亮太・1319(12)
超高齢期の脊椎疾患	亀山 隆・1331(12)
超高齢期のパーキンソン病	金原禎子 武田 篤・1345(12)
超高齢期の認知症	高尾昌樹・1353(12)
超高齢期の精神疾患	新村秀人・1361(12)
【総 説】	
失われた記憶の回復 — ヒスタミン神経系による記憶想起の調節について	野村 洋・69(1)
ペリサイトと神経系 — 生理的役割と病理的意義	清水 文崇・神田 隆・151(2)
腸内細菌と認知機能	佐治 直樹・241(3)
頸原性頭痛の臨床	下畑 敬子・下畑 享良・251(3)
プリオン病研究の進歩 — 医原性プリオン感染について	小林 篤史・437(4)
アミロイド β 、タウの脳間質液濃度への影響要因	

素潜りに伴う中枢神経障害	栗原 正典・坂内 太郎・岩田 淳・525(5)
光を使って読み解く意欲行動の神経基盤	合志 清隆・玉木 英樹 Frédéric Lemaître・森松 嘉孝・石竹 達也・533(5)
パーキンソン病における薬剤代謝と腸内細菌の関わり	吉田慶多朗・637(6)
神経難病の在宅医療 — 難病医療提供体制における在宅診療を担う医療機関の役割	平山 正昭・大野 欽司・勝野 雅央・805(7)
進行性多巣性白質脳症 (PML) の MRI 画像診断 — MRI が捉えた、伸展する脱髄病変の病理	三木 美和 中村 洋一・893(8)
短時間持続性片側神経痛様頭痛発作 (SUNHA) の臨床	穴戸-原 由紀子・鹿戸 将史・973(9)
脳梗塞に対する低酸素低糖刺激末梢血単核球療法	小野寺 理・下畑 享良・金澤 雅人・1097(10)
平山病の病態機序に関する新しい仮説 — 免疫異常に由来する頸部後部硬膜の椎弓への固定不全による	畠山 公大・二宮 格 福武敏夫・1371(12)

【原 著・Original Article】

Body Knowledge in Children with Congenital Upper Limb Deficiency	Hiroshi Mano Sayaka Fujiwara・Nobuhiko Haga・445(4)
音読課題において異なる誤反応パターンを示した純粋発語失行例の検討	山田 晃司 橋本 竜作・幅寺 慎也・643(6)
標準失語症検査における基準関連妥当性の検討	堤内 啓太・森 隆志・大渡 崇世 山田 友美・上野真由美・若林 秀隆・811(7)

【症例報告】

ステロイド単独治療が奏効した脳原発リンパ腫様肉芽腫症 grade1 の1例	中尾 剛幸・泉本 修一・露口 尚弘 加藤 天美・横尾 英明・榎木 英介・159(2)
脳脊髄液中の JCV-DNA 遺伝子検査が2回とも陰性であったが、開頭脳生検で診断確定した HIV 関連進行性多巣性白質脳症の1例	北崎 佑樹・岩崎 博道・北井 隆平 高橋 健太・中道 一生・濱野 忠則・541(5)
Guillain-Barré 症候群およびその亜型との鑑別を要した両側延髄内側梗塞の1例	小林 聡朗・鈴木 圭輔

竹川 英宏・渡邊 悠児・岡村 穂
 鈴木 綾乃・津久井大介・平田 幸一・ 901(8)
 乳児期に脳出血で発症した遺伝性出血性毛細血管拡張症疑
 いの1例……………樋口 直弥・宇田 恵子
 溝上泰一郎・三溝 慎次・石黒 友也
 小宮山雅樹・西村 真二・松尾 宗明・ 907(8)
 MRIで明瞭な信号異常を呈した腕神経叢病変にPET/CT
 ではFDG集積が軽微であったため、炎症性神経障害と
 の鑑別が困難であった神経リンパ腫の1例
 ……………島 智秋・辻野 彰・ 987(9)
 経鼻胃管症候群を呈したパーキンソン病の2症例
 ……………古澤 恭平・杉江 正行・大内 崇弘
 伊藤 まり・水越 元気・矢崎 俊二・ 993(9)
 髄膜腫再発が疑われた膠芽腫の1例
 ……………小林 裕介・三島 一彦・安達 淳一
 鈴木 智成・佐々木 惇・西川 亮・ 1105(10)
【神経画像アトラス】
 未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術施行中に造影剤脳症を呈した
 1例…千田 大樹・松川 東俊・内田 和孝
 金城 典人・長尾洋一郎・吉村 紳一・ 260(3)
 MRI拡散強調画像で両側中小脳脚に高信号を認めた浸透
 圧性脳症の1例
 ……………大岩美都妃・有島 英孝・木村 智輝
 芝池 由規・川尻 智士・山田 真輔
 山内 貴寛・磯崎 誠・常俊 顕三
 松田 謙・小寺 俊昭・菊田健一郎・ 1382(12)
【LETTERS】
 神経細胞が変性壊死するときはシナプスに始まり細胞体に
 終わるという順は、それらが造られてくるときのまった
 く逆順に見える……………生田房弘・ 1385(12)
【学会印象記】
 MDS 2019 — 23rd International Congress of Parkinson's
 Disease and Movement Disorder (2019年9月22~26日、

ニース)……………河村 満・ 80(1)
 Neuroscience 2019 (2019年10月19~23日、シカゴ)
 ……………吉川 輝・ 171(2)
 2019 AANEM Annual Meeting — 66th American Association of
 Neuromuscular & Electrodiagnostic Medicine Annual Meeting
 (2019年10月16~19日、オースティン)
 ……………北國 圭一・ 262(3)
 30th International Symposium on ALS/MND — 30th
 International Symposium on Amyotrophic Lateral Sclerosis and
 Motor Neurone Disease (2019年12月4~6日、パース)
 ……………引網 亮太・ 452(4)
 INS 2020 — The International Neuropsychological Society 48th
 Annual Meeting (2020年2月5~8日、デンバー)
 ……………重宗 弥生・ 547(5)
 AAT-AD/PD™ Focus Meeting 2020 — Advances in Alzheimer's
 and Parkinson's Therapies Focus Meeting 2020 (2020年4月
 2~5日、ウィーン)……………川畑伊知郎・ 819(7)
 AANP 2020 — 96th Annual Meeting of the American
 Association of Neuropathologists (2020年6月11~14日、
 バーチャルミーティング)……………高尾 昌樹・ 999(9)

【連載】

〈臨床で役立つ末梢神経病理の読み方・考え方〉

- (10)悪性腫瘍とニューロパチー
 ……………佐藤 亮太・神田 隆・ 75(1)
 (11)薬剤性ニューロパチー
 ……………佐藤 亮太・神田 隆・ 166(2)
 (12)腓腹神経病理から見た鑑別診断
 ……………佐藤 亮太・神田 隆・ 265(3)

【座談会】

『BRAIN and NERVE』の未来へ
 ……………神田 隆・酒井 邦嘉・下畑 享良
 高尾 昌樹・三村 将・虫明 元・ 3(1)